



# 国勢調査

従業地・通学地による人口・産業等集計結果(香川県分)

## 通勤・通学人口は約 44 万 6 千人 5 年前より 4.0%減少

平成 22 年 10 月 1 日現在で実施された、「平成 22 年国勢調査」の従業地・通学地による人口・産業等集計(通勤・通学人口、昼夜間人口等)の結果に基づき、次のとおり、香川県分をとりまとめました。

### 全国平均と比べ、自市町内で従業・通学する者の割合が高い

- 平成 22 年 10 月 1 日現在の香川県の 15 歳以上の就業者・通学者 (505,813 人) のうち、通勤・通学人口は 446,001 人で、平成 17 年 (464,652 人) と比べて 18,651 人、4.0%の減少となっている。
- 平成 17 年と比べると、従業地・通学地が自市町の者は 294,641 人で 6.7%の減少、県内の他市町の者は 137,305 人で 2.5%の減少、従業地・通学地が他県の者は 7,011 人で 13.1%減少となっている。また、自宅で従業している者は、59,646 人で 21.8%減少となっている。
- 就業者・通学者の従業地・通学地別の割合をみると、県内の他市町の割合は平成 17 年の 26.0%から 27.1%に上昇しているのに対し、他県の割合は 1.5%から 1.4%に、自市町の割合は 58.4%から 58.3%へと低下している。全国平均と比較すると、自市町内で従業・通学する者の割合が高くなっている。 [表 1、図 1]

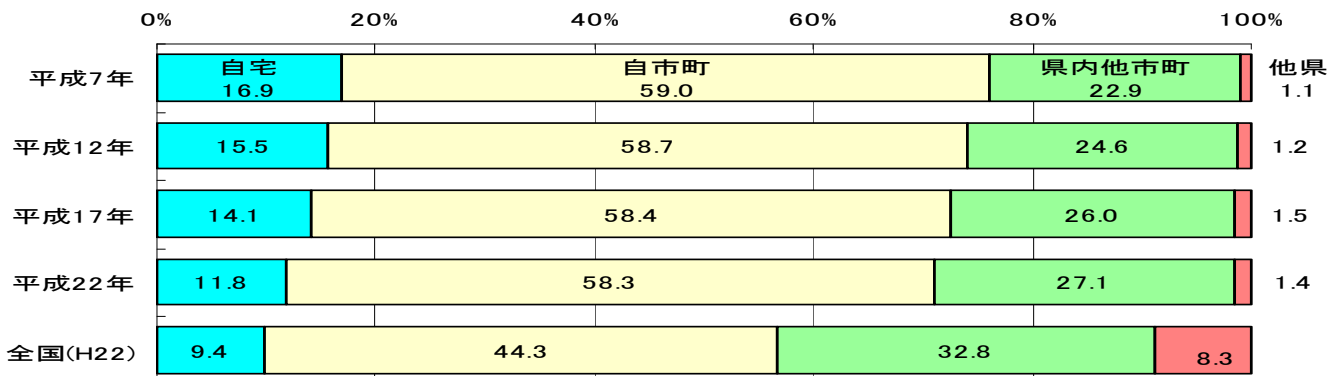
表 1 常住地による従業地・通学地別15歳以上就業者・通学者の推移(平成7年～平成22年)

	就業者・通学者数(人)				割合(%)				増減率(%)		
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	H7-H12	H12-H17	H17-H22
本県常住の就業・通学者	594,317	568,592	540,905	505,813	100.0	100.0	100.0	100.0	-4.3	-4.9	-6.5
自宅で従業	100,572	88,204	76,253	59,646	16.9	15.5	14.1	11.8	-12.3	-13.5	-21.8
通勤・通学者	493,745	480,388	464,652	446,001	83.1	84.5	85.9	88.2	-2.7	-3.3	-4.0
自市区町村	350,827	333,535	315,744	294,641	59.0	58.7	58.4	58.3	-4.9	-5.3	-6.7
他市区町村	142,918	146,853	148,908	151,360	24.0	25.8	27.5	29.9	2.8	1.4	1.6
県内	136,394	140,021	140,837	137,305	22.9	24.6	26.0	27.1	2.7	0.6	-2.5
他県	6,524	6,832	8,071	7,011	1.1	1.2	1.5	1.4	4.7	18.1	-13.1
就業者	527,995	511,354	490,775	462,418	100.0	100.0	100.0	100.0	-3.2	-4.0	-5.8
自宅で従業	100,572	88,204	76,253	59,646	19.0	17.2	15.5	12.9	-12.3	-13.5	-21.8
通勤・通学者	427,423	423,150	414,522	402,630	81.0	82.8	84.5	87.1	-1.0	-2.0	-2.9
自市区町村	306,547	295,645	282,776	267,454	58.1	57.8	57.6	57.8	-3.6	-4.4	-5.4
他市区町村	120,876	127,505	131,746	135,176	22.9	24.9	26.8	29.2	5.5	3.3	2.6
県内	115,806	121,894	125,243	123,276	21.9	23.8	25.5	26.7	5.3	2.7	-1.6
他県	5,070	5,611	6,503	5,695	1.0	1.1	1.3	1.2	10.7	15.9	-12.4
通学者	66,322	57,238	50,130	43,395	100.0	100.0	100.0	100.0	-13.7	-12.4	-13.4
自市区町村	44,280	37,890	32,968	27,187	66.8	66.2	65.8	62.7	-14.4	-13.0	-17.5
他市区町村	22,042	19,348	17,162	16,184	33.2	33.8	34.2	37.3	-12.2	-11.3	-5.7
県内	20,588	18,127	15,594	14,029	31.0	31.7	31.1	32.3	-12.0	-14.0	-10.0
他県	1,454	1,221	1,568	1,316	2.2	2.1	3.1	3.0	-16.0	28.4	-16.1

(注) 平成22年の他市区町村の数は、県内、県外の就業、通学者「不詳」を含むため内訳の県内、県外の計とは一致しない。

平成7年、12年、17年は平成22年10月1日現在の市町の境域に基づいて組み替えた人口である。

図 1 従業地・通学地別15歳以上就業者・通学者の割合の推移(香川県:平成7年～平成22年、全国:平成22年)



## 他市町への通勤者の割合は男性 32.3%、女性 25.4%

- 他市町への通勤者の割合は、男性が 32.3%、女性が 25.4%となっている。
- 他市町への通勤者の割合を年齢階級別にみると、男性は 20～54 歳で 36%台となっており、30～34 歳が 36.9%と最も高くなっている。女性は 30 歳以上で年齢階級が高くなるにしたがってその割合は低下しており、25～29 歳が 35.7%と最も高くなっている。
- 全国平均と比べると、全ての年齢階級で低くなっている。

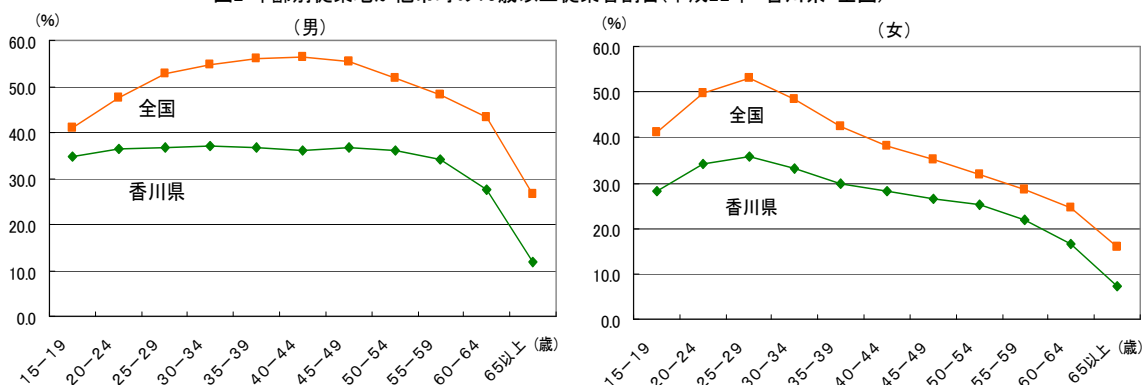
[表 2、図 2]

表2 常住地による従業地、年齢、男女別 15歳以上就業者の割合(平成22年) (%)

	香 川 県						全 国					
	就業者	自市区町村		他市区町村			就業者	自市区町村		他市区町村		
		自宅	自宅外	1)	県内	他県		自宅	自宅外	1)	県内	他県
総数	100.0	12.9	57.9	29.2	28.0	1.3	100.0	10.7	45.4	43.8	35.0	8.8
15-19歳	100.0	0.9	67.3	31.8	30.5	1.3	100.0	1.1	57.9	41.0	34.6	6.4
20-24歳	100.0	1.6	63.1	35.3	34.2	1.1	100.0	1.4	49.9	48.6	39.5	9.1
25-29歳	100.0	2.7	61.1	36.2	35.0	1.1	100.0	2.5	44.6	52.9	42.5	10.4
30-34歳	100.0	3.8	60.9	35.3	34.1	1.2	100.0	3.9	43.9	52.2	41.9	10.3
35-39歳	100.0	5.1	61.2	33.6	32.3	1.3	100.0	5.1	44.5	50.4	40.3	10.1
40-44歳	100.0	6.1	61.4	32.5	30.8	1.7	100.0	6.1	45.4	48.6	38.5	10.1
45-49歳	100.0	7.0	61.0	32.0	30.3	1.7	100.0	7.1	46.6	46.3	36.7	9.6
50-54歳	100.0	9.5	59.5	31.0	29.4	1.6	100.0	9.2	47.9	42.9	34.4	8.6
55-59歳	100.0	12.8	58.4	28.8	27.2	1.6	100.0	12.3	47.8	39.9	31.8	8.1
60-64歳	100.0	21.6	55.4	23.0	21.9	1.1	100.0	18.2	46.0	35.8	28.4	7.5
65歳以上	100.0	50.1	39.9	10.0	9.5	0.5	100.0	39.7	37.8	22.4	17.7	4.7
男	100.0	13.3	54.4	32.3	30.4	1.9	100.0	10.7	40.1	49.3	38.2	11.1
15-19歳	100.0	1.3	63.8	34.9	33.6	1.3	100.0	1.5	57.5	41.0	34.8	6.2
20-24歳	100.0	2.1	61.5	36.4	35.1	1.4	100.0	1.9	50.5	47.6	38.8	8.8
25-29歳	100.0	3.2	60.3	36.6	35.2	1.3	100.0	2.9	44.2	52.9	42.5	10.4
30-34歳	100.0	4.1	59.0	36.9	35.4	1.5	100.0	4.1	41.1	54.9	43.5	11.4
35-39歳	100.0	5.4	58.0	36.6	34.8	1.9	100.0	5.0	39.1	56.0	43.6	12.3
40-44歳	100.0	6.5	57.4	36.1	33.5	2.6	100.0	6.1	37.4	56.5	43.0	13.5
45-49歳	100.0	7.3	56.0	36.8	33.9	2.8	100.0	7.2	37.4	55.4	41.8	13.6
50-54歳	100.0	9.8	54.3	36.0	33.4	2.5	100.0	9.1	39.1	51.8	39.5	12.3
55-59歳	100.0	12.6	53.3	34.1	31.6	2.5	100.0	11.8	39.9	48.3	36.9	11.4
60-64歳	100.0	21.0	51.6	27.4	25.9	1.6	100.0	17.0	39.7	43.3	33.0	10.3
65歳以上	100.0	49.0	39.0	12.0	11.2	0.7	100.0	37.0	36.5	26.6	20.4	6.2
女	100.0	12.4	62.2	25.4	24.8	0.5	100.0	10.7	52.6	36.7	30.9	5.8
15-19歳	100.0	0.4	71.4	28.2	27.0	1.2	100.0	0.7	58.3	41.0	34.5	6.6
20-24歳	100.0	1.2	64.7	34.1	33.3	0.8	100.0	1.0	49.3	49.7	40.3	9.4
25-29歳	100.0	2.2	62.1	35.7	34.8	0.9	100.0	1.9	45.2	52.9	42.5	10.4
30-34歳	100.0	3.3	63.4	33.3	32.5	0.8	100.0	3.6	47.8	48.5	39.6	8.9
35-39歳	100.0	4.8	65.5	29.7	29.1	0.6	100.0	5.2	52.3	42.5	35.6	7.0
40-44歳	100.0	5.6	66.2	28.1	27.5	0.7	100.0	6.0	55.8	38.2	32.6	5.6
45-49歳	100.0	6.8	66.7	26.5	26.1	0.4	100.0	7.0	57.9	35.1	30.5	4.6
50-54歳	100.0	9.2	65.7	25.0	24.7	0.4	100.0	9.3	59.0	31.8	27.9	3.9
55-59歳	100.0	13.2	65.0	21.9	21.5	0.4	100.0	13.0	58.6	28.4	25.0	3.5
60-64歳	100.0	22.4	61.0	16.6	16.3	0.3	100.0	19.9	55.5	24.6	21.4	3.1
65歳以上	100.0	51.7	41.0	7.2	7.1	0.2	100.0	44.1	40.0	16.0	13.7	2.3

1) 従業先市区町村「不詳」を含む。

図2 年齢別従業地が他市町の15歳以上従業者割合(平成22年 香川県・全国)



## 第2次、第3次産業では自市町で従業する割合が高い

- 15歳以上の就業者の従業地別割合を産業別にみると、第1次産業では自宅の割合が高く、「農業、林業」では82.6%を占めている。
- 第2次産業では自市町の割合が高くなっているが、「製造業」では他市町で従業する割合が38.9%と他の産業に比べて比較的高くなっている。
- 第3次産業でも自市町の割合が高いが、「運輸業、郵便業」が40.7%、「教育、学習支援業」が37.0%など他市町で従業する割合が他の産業に比べて比較的高くなっている。
- 全国平均と比べると、第2次、第3次産業で自市町で従業する割合が高くなっている。

[表3]

表3 産業、従業地別15歳以上就業者の割合(平成22年 香川県・全国) (%)

	総数	自市区町村		他市区町村		
		自宅	自宅外	1)	県内	他県
<b>[香 川 県]</b>						
総 数	100.0	12.9	57.9	29.2	28.0	1.3
A 農業, 林業	100.0	82.6	13.7	3.6	3.5	0.1
B 漁業	100.0	68.4	29.0	2.6	2.1	0.5
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	100.0	11.1	69.0	19.9	18.7	1.2
D 建設業	100.0	16.1	55.6	28.3	26.6	1.7
E 製造業	100.0	6.3	54.8	38.9	37.2	1.7
F 電気・ガス・熱供給・水道業	100.0	-	68.2	31.8	30.0	1.8
G 情報通信業	100.0	4.6	66.3	29.0	26.6	2.4
H 運輸業, 郵便業	100.0	2.3	57.0	40.7	37.5	3.1
I 卸売業, 小売業	100.0	11.3	62.1	26.6	25.5	1.1
J 金融業, 保険業	100.0	2.6	64.1	33.3	31.5	1.8
K 不動産業, 物品賃貸業	100.0	20.4	58.7	20.9	19.9	1.0
L 学術研究, 専門・技術サービス業	100.0	18.4	52.0	29.6	27.9	1.7
M 宿泊業, 飲食サービス業	100.0	10.2	68.4	21.4	20.6	0.8
N 生活関連サービス業, 娯楽業	100.0	18.3	57.7	24.0	23.1	0.9
O 教育, 学習支援業	100.0	5.4	57.6	37.0	36.0	1.0
P 医療, 福祉	100.0	3.7	63.9	32.3	31.7	0.6
Q 複合サービス事業	100.0	0.2	70.1	29.7	29.4	0.3
R サービス業(他に分類されないもの)	100.0	11.2	64.0	24.8	23.8	1.0
S 公務(他に分類されるものを除く)	100.0	0.3	73.0	26.7	25.3	1.4
T 分類不能の産業	100.0	15.8	55.0	29.2	27.3	2.0
(再掲)						
第1次産業 (A~B)	100.0	81.3	15.1	3.5	3.4	0.1
第2次産業 (C~E)	100.0	9.4	55.1	35.4	33.7	1.7
第3次産業 (F~S)	100.0	8.2	62.6	29.1	27.9	1.2
<b>[全 国]</b>						
総 数	100.0	10.7	45.4	43.8	35.0	8.8
A 農業, 林業	100.0	79.0	16.2	4.7	4.3	0.4
B 漁業	100.0	60.7	33.5	5.8	3.8	2.0
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	100.0	3.2	59.6	37.3	30.5	6.8
D 建設業	100.0	15.1	44.6	40.3	31.8	8.5
E 製造業	100.0	5.3	46.8	47.9	39.4	8.5
F 電気・ガス・熱供給・水道業	100.0	0.0	42.6	57.4	46.1	11.3
G 情報通信業	100.0	4.5	18.6	77.0	47.3	29.7
H 運輸業, 郵便業	100.0	2.7	43.0	54.4	43.8	10.6
I 卸売業, 小売業	100.0	9.6	47.1	43.3	34.2	9.0
J 金融業, 保険業	100.0	2.8	33.6	63.6	46.7	16.9
K 不動産業, 物品賃貸業	100.0	20.0	34.6	45.4	33.7	11.7
L 学術研究, 専門・技術サービス業	100.0	16.5	29.9	53.6	39.1	14.5
M 宿泊業, 飲食サービス業	100.0	9.7	56.7	33.6	28.0	5.6
N 生活関連サービス業, 娯楽業	100.0	16.1	46.8	37.1	30.3	6.8
O 教育, 学習支援業	100.0	4.8	45.6	49.6	41.3	8.3
P 医療, 福祉	100.0	3.1	58.7	38.3	33.8	4.5
Q 複合サービス事業	100.0	0.5	63.4	36.1	33.4	2.8
R サービス業(他に分類されないもの)	100.0	7.9	44.8	47.2	37.5	9.8
S 公務(他に分類されるものを除く)	100.0	0.3	57.4	42.3	35.0	7.4
T 分類不能の産業	100.0	11.6	45.8	42.6	32.3	10.3
(再掲)						
第1次産業 (A~B)	100.0	77.7	17.5	4.8	4.3	0.5
第2次産業 (C~E)	100.0	8.4	46.1	45.4	37.0	8.5
第3次産業 (F~S)	100.0	7.5	46.9	45.7	36.3	9.4

1) 従業先市区町村「不詳」を含む。

**他市町に通勤・通学する者が多いのは、宇多津町、三木町、綾川町、多度津町、まんのう町、琴平町**

- 15歳以上の就業者・通学者のうち、「従業地・通学地が他市町である者」の割合を市町別にみると、宇多津町(66.3%)が最も高く、三木町(60.0%)、綾川町(57.5%)、多度津町(55.2%)、まんのう町(55.2%)、琴平町(52.5%)など5町でも半数を超えている。
- これに対して、「従業地・通学地が他市町である者」の割合が低い市町をみると、直島町が7.8%と最も低く、次いで高松市が11.9%、小豆島町が16.0%などとなっている。

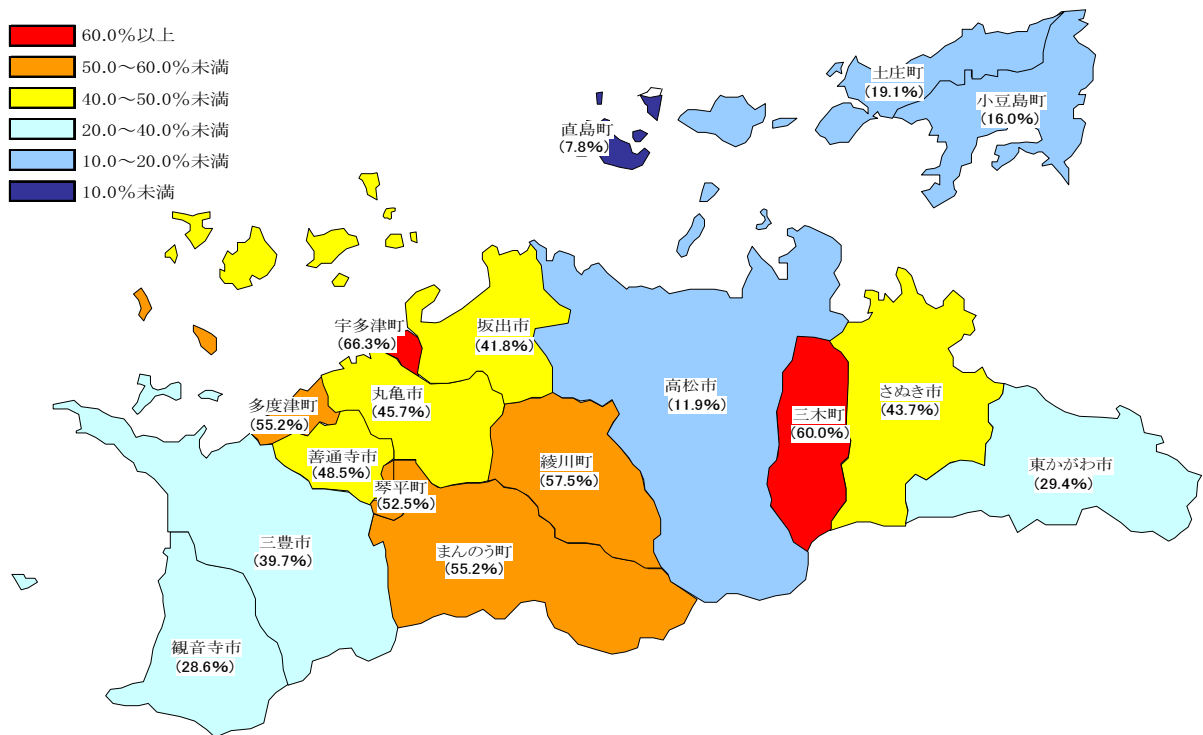
[表4、図3]

**表4 常住地による従業地・通学地別15歳以上就業者・通学者の割合（平成22年～平成17年）** (%)

	平成22年								平成17年 <sup>2)</sup>					
	総数	自市区町村		他市区町村 <sup>1)</sup>				総数	自市区町村		他市区町村			
		自宅	自宅外	県内	他県	自宅	自宅外		県内	他県				
香川	100.0	11.8	58.3	29.9	27.2	1.4	100.0	14.1	58.4	27.5	26.0	1.5		
高松	100.0	8.8	79.3	11.9	9.6	1.0	100.0	10.7	79.4	10.0	8.8	1.2		
丸亀	100.0	9.6	44.7	45.7	42.5	1.2	100.0	11.7	45.3	43.1	41.6	1.5		
坂出	100.0	11.2	47.0	41.8	38.4	1.7	100.0	14.0	47.6	38.4	36.8	1.6		
善通寺	100.0	11.7	39.8	48.5	46.6	1.2	100.0	13.6	42.0	44.5	43.5	0.9		
観音	100.0	18.6	52.8	28.6	22.8	4.0	100.0	21.4	53.8	24.8	20.5	4.3		
さぬき	100.0	13.6	42.7	43.7	41.6	1.0	100.0	16.5	43.0	40.5	39.2	1.3		
東かがわ	100.0	18.2	52.4	29.4	25.3	2.8	100.0	21.5	51.9	26.6	24.0	2.6		
三豊	100.0	17.7	42.6	39.7	36.5	1.4	100.0	21.1	42.3	36.6	35.2	1.4		
土庄	100.0	19.0	61.9	19.1	18.0	0.9	100.0	20.8	62.6	16.7	15.7	1.0		
小豆島	100.0	16.6	67.5	16.0	14.9	0.6	100.0	19.6	65.8	14.6	14.2	0.4		
三木	100.0	11.1	28.9	60.0	57.0	1.1	100.0	13.1	31.6	55.3	54.5	0.8		
直島	100.0	7.4	84.8	7.8	1.9	5.2	100.0	6.5	83.8	9.7	3.1	6.6		
宇多津	100.0	5.8	27.9	66.3	63.8	1.8	100.0	6.4	29.7	63.9	62.7	1.2		
綾川	100.0	14.9	27.6	57.5	54.9	0.9	100.0	17.5	26.2	56.3	55.3	1.0		
琴平	100.0	20.1	27.4	52.5	50.3	1.0	100.0	21.7	30.8	47.5	46.4	1.2		
多度津	100.0	10.1	34.6	55.2	53.7	0.9	100.0	12.5	32.6	54.9	53.8	1.1		
まんのう	100.0	20.3	24.5	55.2	52.8	0.9	100.0	21.4	25.2	53.4	52.1	1.3		

1) 他市区町村に従業・通学で、従業地・通学地「不詳」を含む。  
 2) 平成17年は、平成22年10月1日現在の市町の境域に基づいて組み替えた人口である。

**図3 市町別他市区町村に従業通学する者の割合（平成22年）**



**他市町から通勤・通学してくる者が多いのは、宇多津町、琴平町、多度津町、坂出市**

- 県内の各市町で従業・通学する 15 歳以上の就業者・通学者のうち、「常住地が他市町である者」の割合を市町別にみると、宇多津町(69.0%)、琴平町(53.4%)、多度津町(53.2%)、坂出市(51.5%) の 1 市 3 町で半数を超えている。
- これに対して、「常住地が他市町である者」の割合が低い市町をみると、小豆島町が 15.7%と最も低く、次いで土庄町が 16.6%、高松市が 18.2%などとなっている。

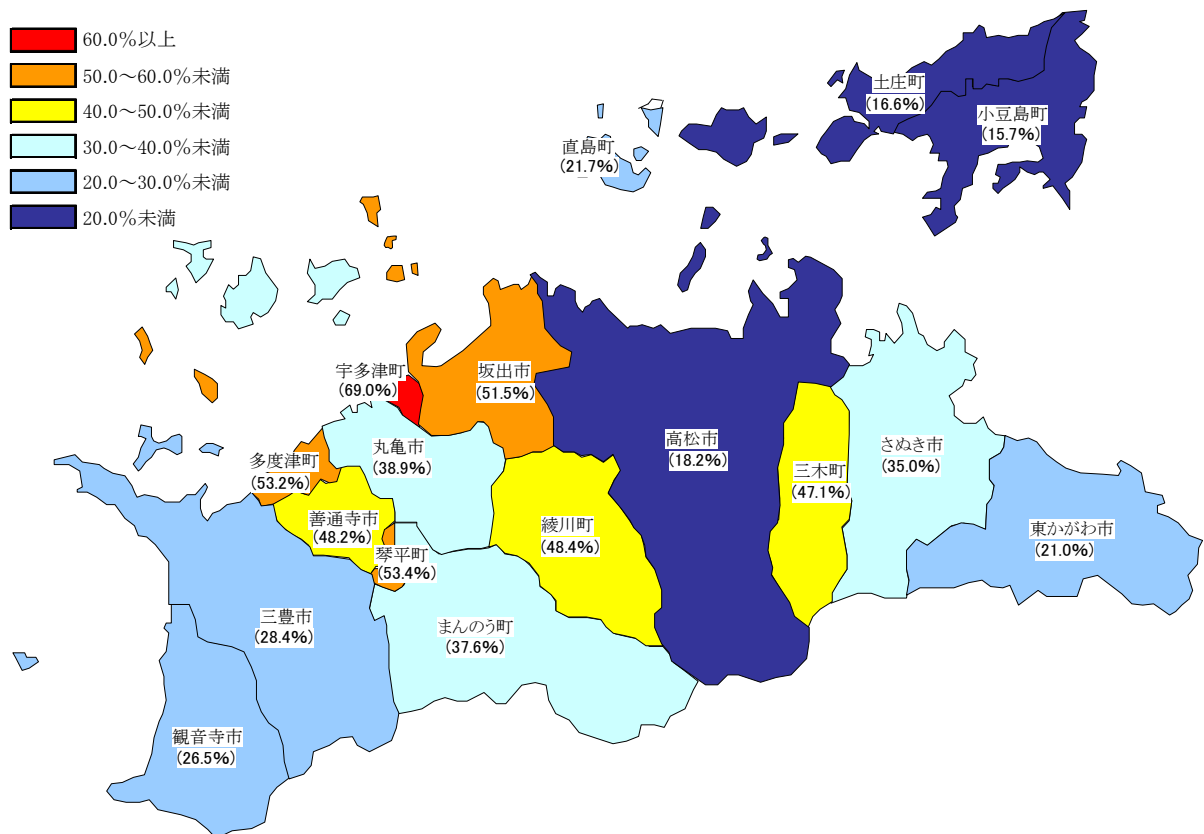
[表 5、図 4]

**表5 従業地・通学地による常住地別15歳以上就業者・通学者数の割合（平成22年～平成17年） (%)**

	平成22年							平成17年 2)					
	総数 1)	自市区町村		他市区町村			他県	総数	自市区町村		他市区町村		
		自宅	自宅外	県内	他県	自宅			自宅外	県内	他県		
香川	100.0	11.9	58.9	29.2	27.4	1.8	100.0	14.0	58.2	27.8	25.9	1.8	
高松	100.0	8.2	73.6	18.2	16.6	1.6	100.0	9.7	71.9	18.4	16.6	1.8	
丸亀	100.0	10.8	50.3	38.9	37.7	1.2	100.0	13.0	50.5	36.5	35.3	1.2	
坂出	100.0	9.3	39.2	51.5	50.0	1.4	100.0	11.7	39.8	48.5	47.1	1.4	
善通寺	100.0	11.8	40.1	48.2	46.8	1.4	100.0	13.3	41.1	45.7	44.0	1.7	
観音寺	100.0	19.1	54.4	26.5	22.2	4.3	100.0	21.2	53.5	25.3	21.6	3.7	
さぬき	100.0	15.7	49.3	35.0	33.8	1.2	100.0	18.8	48.9	32.3	31.0	1.3	
東かがわ	100.0	20.4	58.6	21.0	16.7	4.2	100.0	24.0	57.9	18.1	14.5	3.6	
三豊	100.0	21.0	50.6	28.4	26.6	1.8	100.0	24.9	49.8	25.3	23.5	1.8	
土庄	100.0	19.6	63.8	16.6	15.9	0.7	100.0	21.1	63.6	15.3	14.5	0.8	
小豆	100.0	16.6	67.7	15.7	14.7	1.0	100.0	19.8	66.5	13.7	12.7	1.0	
三木	100.0	14.7	38.2	47.1	46.3	0.8	100.0	16.8	40.6	42.6	41.6	1.0	
直島	100.0	6.3	72.0	21.7	1.8	19.9	100.0	5.9	74.9	19.2	1.4	17.8	
宇多津	100.0	5.3	25.7	69.0	67.5	1.5	100.0	5.8	26.7	67.5	65.9	1.7	
綾川	100.0	18.1	33.5	48.4	47.7	0.7	100.0	23.2	34.8	42.0	41.3	0.7	
琴平	100.0	19.7	26.9	53.4	52.4	1.0	100.0	19.7	27.9	52.4	51.5	0.9	
多度津	100.0	10.6	36.2	53.2	52.0	1.2	100.0	13.6	35.4	51.0	50.0	1.0	
まんのう	100.0	28.2	34.1	37.6	36.5	1.2	100.0	30.2	35.6	34.2	32.9	1.3	

- 1) 従業地・通学地「不詳」で、当地に常住している者を含む。  
 2) 平成17年は、平成22年10月1日現在の市町の境域に基づいて組み替えた人口である。

**図4 市町別他市区町村から従業通学する者の割合(平成22年)**



## 昼夜間人口比率は坂出市、直島町が高く、まんのう町、三木町で低い

- 昼夜間人口比率（夜間人口 100 人当たりの昼間人口の割合）は、坂出市が 111.0 と最も高く、次いで直島町が 109.9 となっているほか、2 市 4 町で 100 を超えている。また、まんのう町（86.0）、三木町（87.9）の 2 町で 90 を下回っている。昼夜間人口比率が 100 を超えている近隣の市町では昼夜間人口比率が低くなる傾向がある。
- 平成 17 年と比べると、綾川町（5.4 ポイント）、直島町（3.7 ポイント）などが上昇している一方、琴平町（3.9 ポイント）、善通寺市（1.2 ポイント）などで低下している。

[表 6、図 5]

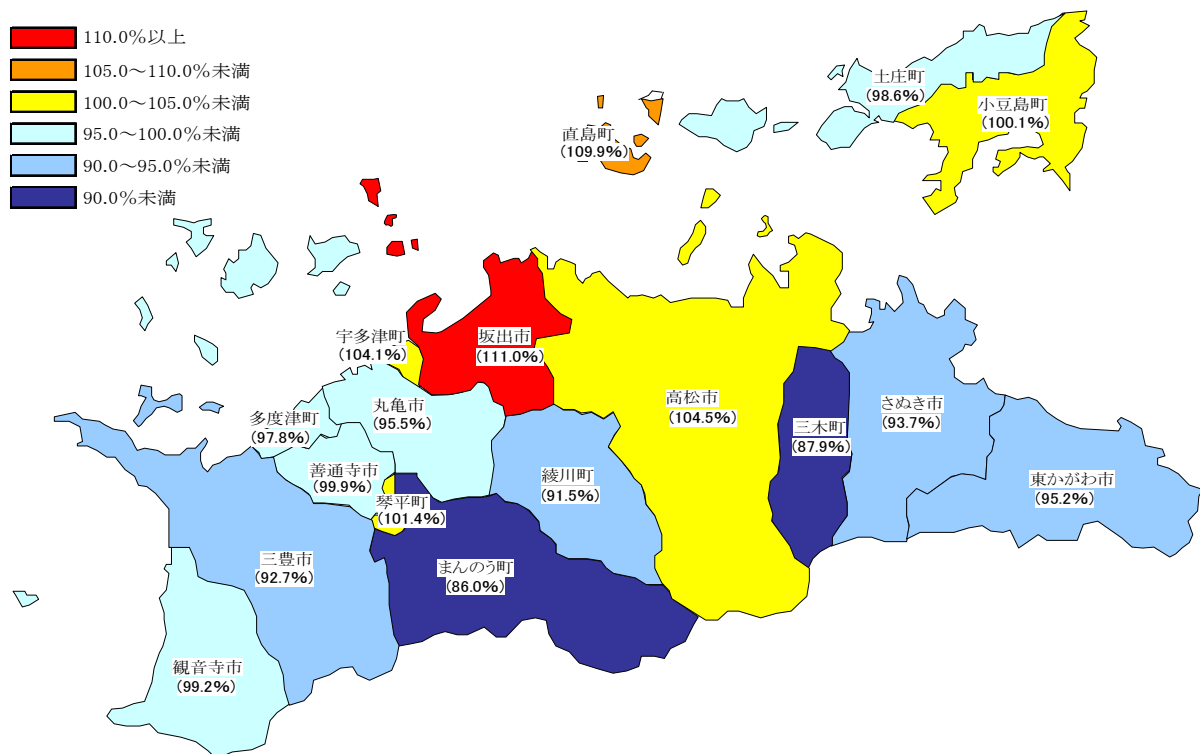
表6 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率（平成22年～平成17年）

	昼間人口（人）		夜間人口（人）		昼夜間人口の差（人）		昼夜間人口比率	
	平成17年	平成22年	平成17年	平成22年	平成17年	平成22年	平成17年	平成22年
香川県	1,012,636	997,863	1,010,759	995,842	1,877	2,021	100.2	100.2
高松市	439,739	438,504	416,776	419,429	22,963	19,075	105.5	104.5
丸亀市	104,078	105,518	109,972	110,473	-5,894	-4,955	94.6	95.5
坂出市	63,067	61,717	57,192	55,621	5,875	6,096	110.3	111.0
善通寺市	35,893	33,799	35,495	33,817	398	-18	101.1	99.9
観音寺市	65,251	62,204	65,194	62,690	57	-486	100.1	99.2
さぬき市	52,104	49,656	55,731	53,000	-3,627	-3,344	93.5	93.7
東かがわ市	33,891	31,996	35,923	33,625	-2,032	-1,629	94.3	95.2
三豊市	65,280	63,506	71,180	68,512	-5,900	-5,006	91.7	92.7
土庄町	16,270	14,904	16,411	15,123	-141	-219	99.1	98.6
小豆島町	17,161	16,164	17,257	16,152	-96	12	99.4	100.1
三木町	25,195	25,019	28,774	28,464	-3,579	-3,445	87.6	87.9
直島町	3,756	3,653	3,538	3,325	218	328	106.2	109.9
宇多津町	18,366	19,188	17,445	18,434	921	754	105.3	104.1
綾川町	22,054	22,521	25,617	24,625	-3,563	-2,104	86.1	91.5
琴平町	11,318	10,111	10,747	9,967	571	144	105.3	101.4
多度津町	22,572	22,980	23,611	23,498	-1,039	-518	95.6	97.8
まんのう町	16,641	16,423	19,896	19,087	-3,255	-2,664	83.6	86.0

注1) 平成17年は、平成22年10月1日現在の市町の境域に基づいて組み替えた人口である。

注2) 平成17年の「昼間人口」及び「夜間人口」には年齢不詳は含まない。

図5 市町別昼夜間人口比率（平成22年）



## 高松市への流入人口は 3,600 人減少、流出人口は 2,930 人増加

- 高松市を従業地・通学地として他市町から流入する 15 歳以上人口は 41,249 人（高松市を従業地・通学地とする者（228,694 人）の 18.0%）で、平成 17 年に比べ 3,600 人、8.0%の減少となっている。
- このうち、県内の他市町からの流入を市町別でみると、さぬき市からの流入が 7,918 人、三木町からの流入が 6,608 人、丸亀市からの流入が 5,325 人などとなっている。
- 一方、高松市に常住し、他市町を従業地・通学地として流出する 15 歳以上人口は 24,927 人（高松市に常住する 15 歳以上就業者・通学者（209,785 人）の 11.9%）で、平成 17 年に比べ 2,930 人、13.3%の増加となっている。
- このうち、県内の他市町への流出を市町別でみると、さぬき市への流出が 4,096 人、坂出市への流出が 3,695 人、三木町への流出が 3,553 人などとなっている。

〔表 7〕

表7 高松市の15歳以上流入・流出人口の推移(平成7年～22年)

	流入・流出人口(人)				割合(%)				増減率(%)		
	平成7年	12年	17年	22年	平成7年	12年	17年	22年	平成7年 ～12年	平成12年 ～17年	平成17年 ～22年
高松市への流入人口 (常住地が高松市外)	45,810	46,627	44,849	41,249	17.3	18.1	18.4	18.0	1.8	-3.8	-8.0
県内他市町から	42,220	42,608	40,532	37,563	16.0	16.6	16.6	16.4	0.9	-4.9	-7.3
さぬき市	9,227	9,348	8,425	7,918	3.5	3.6	3.5	3.5	1.3	-9.9	-6.0
三木町	6,781	6,760	6,766	6,608	2.6	2.6	2.8	2.9	-0.3	0.1	-2.3
丸亀市	5,681	6,111	5,838	5,325	2.1	2.4	2.4	2.3	7.6	-4.5	-8.8
綾川町	5,832	5,941	5,628	4,902	2.2	2.3	2.3	2.1	1.9	-5.3	-12.9
坂出市	4,938	4,815	4,518	4,231	1.9	1.9	1.9	1.9	-2.5	-6.2	-6.4
その他市町	9,761	9,633	9,357	8,579	3.7	3.7	3.8	3.8	-1.3	-2.9	-8.3
他 県	3,590	4,019	4,317	3,686	1.4	1.6	1.8	1.6	11.9	7.4	-14.6
高松市からの流出人口 (従業地・通学地が高松市外)	18,549	19,876	21,997	24,927	7.8	8.6	10.0	11.9	7.2	10.7	13.3
県内他市町	17,201	18,116	19,426	20,204	7.3	7.9	8.8	9.6	5.3	7.2	4.0
さぬき市	4,969	4,362	4,321	4,096	2.1	1.9	2.0	2.0	-12.2	-0.9	-5.2
坂出市	3,284	3,277	3,388	3,695	1.4	1.4	1.5	1.8	-0.2	3.4	9.1
三木町	2,417	2,854	3,357	3,553	1.0	1.2	1.5	1.7	18.1	17.6	5.8
綾川町	1,550	2,150	2,394	2,805	0.7	0.9	1.1	1.3	38.7	11.3	17.2
丸亀市	1,867	2,117	2,261	2,322	0.8	0.9	1.0	1.1	13.4	6.8	2.7
その他市町	3,114	3,356	3,705	3,733	1.3	1.5	1.7	1.8	7.8	10.4	0.8
他 県	1,348	1,760	2,571	2,136	0.6	0.8	1.2	1.0	30.6	46.1	-16.9

注) 平成7年、12年、17年は、平成22年10月1日現在の市町の境域に基づいて組み替えた人口である。

## 香川県への流入人口は 884 人減少、流出人口は 1,060 人減少

- 香川県を従業地・通学地として他県から流入する人口は 9,014 人（香川県を従業地・通学地とする者（507,816 人）の 1.8%）で、平成 17 年に比べ 884 人、8.9%の減少となっている。
- 県別では、徳島県からの流入が 3,059 人、愛媛県からが 2,242 人、岡山県からが 2,025 人などとなっており、平成 17 年と比べると、徳島県からの流入は 5.5%、愛媛県からの流入は 4.7%、岡山県からの流入は 7.7%それぞれ減少している。
- 一方、他県を従業地・通学地として香川県から流出する人口は 7,011 人（香川県で常住する 15 歳以上就業者・通学者（505,813 人）の 1.4%）で、平成 17 年に比べ 1,060 人、13.1%の減少となっている。
- 県別では、愛媛県への流出が 2,257 人、岡山県へが 1,749 人、徳島県へが 1,402 人などとなっており、平成 17 年と比べると、愛媛県への流出は 15.2%、岡山県への流出は 7.2%、徳島県への流出は 13.6%それぞれ減少している。

〔表 8〕

表8 香川県への15歳以上流入・流出人口の推移(平成7年～平成22年)

	流入・流出人口(人)				割合(%)				増減率(%)		
	平成7年	12年	17年	22年	平成7年	12年	17年	22年	平成7年 ～12年	平成12年 ～17年	平成17年 ～22年
香川県への流入人口 (常住地が県外)	8,985	9,201	9,898	9,014	100.0	100.0	100.0	100.0	2.4	7.6	-8.9
岡山県	2,168	2,268	2,193	2,025	24.1	24.6	22.2	22.5	4.6	-3.3	-7.7
徳島県	3,187	2,970	3,238	3,059	35.5	32.3	32.7	33.9	-6.8	9.0	-5.5
愛媛県	1,850	2,187	2,352	2,242	20.6	23.8	23.8	24.9	18.2	7.5	-4.7
高知県	329	344	405	370	3.7	3.7	4.1	4.1	4.6	17.7	-8.6
その他の県	1,451	1,432	1,710	1,318	16.1	15.6	17.3	14.6	-1.3	19.4	-22.9
香川県からの流出人口 (従業地・通学地が県外)	6,524	6,832	8,071	7,011	100.0	100.0	100.0	100.0	4.7	18.1	-13.1
岡山県	2,054	1,846	1,884	1,749	31.5	27.0	23.3	24.9	-10.1	2.1	-7.2
徳島県	1,361	1,499	1,623	1,402	20.9	21.9	20.1	20.0	10.1	8.3	-13.6
愛媛県	2,094	2,192	2,660	2,257	32.1	32.1	33.0	32.2	4.7	21.4	-15.2
高知県	125	417	283	225	1.9	6.1	3.5	3.2	233.6	-32.1	-20.5
その他の県	890	878	1,621	1,378	13.6	12.9	20.1	19.7	-1.3	84.6	-15.0

## [用語の解説]

### ① 通勤・通学人口

「通勤・通学人口」とは、1. 自宅外で従業している15歳以上就業者の人口と2. 学校（予備校などの各種学校，専修学校を含む。）に通っている15歳以上通学者の人口をいう。

### ② 流出人口（通勤・通学者）

A市における「流出人口（通勤・通学者）」とは，A市に常住しA市以外へ通勤・通学する人口をいい，「流入人口（通勤・通学者）」とは，A市以外に常住しA市に通勤・通学する人口をいう。

### ③ 昼間人口と夜間人口

従業地・通学地による人口（昼間人口）とは，従業地・通学地集計の結果を用いて，次により算出された人口である。ただし，この昼間人口には，買物客などの非定常的な移動については考慮していない。また，常住地による人口（夜間人口）とは，調査の時期に調査の地域に常住している人口である。

### ④ 昼夜間人口比率

昼夜間人口比率は，常住人口100人当たりの昼間人口の割合であり，100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過，100を下回っているときは流出超過を示している。